

【研究テーマ】

□ 「ことばを紡ぎ、人を繋ぐ」交流活動

キーワード：交流、短歌、高齢者福祉、地域共生

プロジェクトの概要

◆「繋ぐ・私たちの言葉ー静岡を共に創るー」 SDKGs（静大の国語を愛する学生達）

しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業（静岡市高齢者福祉課）

高齢者と学生との短歌作りの交流は、3年目を迎えました。心温まる言葉を紡ぎ出して数多くそれに触れました。短歌作りによる「繋がり」は、参加者と学生、双方に笑顔をもたらし、メールやFaxによる投稿も続いています。



◇市内各所での対面交流

- 由比交流センター 8月1日(火)、用宗老人福祉センター 8月22日(火)
- 清水北部交流センター 8月23日(水)、長尾川老人福祉センター 8月24日(木)
- 蒲原老人福祉センター 8月29日(火)、折戸老人福祉センター 9月14日(木)
- 清水南部交流センター 9月20日(水)、清開きらく荘 9月28日(木)
- 船越老人福祉センター 9月29日(金)、足久保シニアクラブ書作品制作：書道室 8月24日(木)

◆キャンパスフェスタin静岡

アクティブシニアの青春再来！！静大生にエールを(11/4)

午前午後、それぞれ4箇所の高齢者福祉施設からシニアの方々、約100名を招待して、キャンパスミュージアムや静大祭の企画を楽しんでもらいました。

共通棟2階玄関付近に上記の活動を紹介するパネルを設置し、そこに来校者から静大生へのメッセージカードも掲示しました。「静岡の未来は安心」「青春を楽しんで」などの温かいメッセージが寄せられ、学生たちを励ましていました。



◆積極的な、キャンパスへの呼び込みと研究成果の還元

前年度のキャンパスフェスタは、新型コロナ感染防止対策を優先して、大学生とシニアの方とが接触しないよう教育棟での講座に参加してもらいましたが、今回はツアー形式にさせていただきました。

計画的に準備して大規模に社会貢献事業を実施できるに越したことはないですが、大学生と対象者同士が、共にことばを紡ぎ合う「学びの場」の設定は、畏まったものでなくてもいいのではないのでしょうか。コミュニティの異年齢への拡大展開は、「できることから、できる範囲で」無理なく取り組むことによって実現すると思います。そして、こうした取り組みの姿勢こそが、持続可能な地域貢献を可能にすると考えています。

足久保シニアクラブとは、今回は、大学に出かけてきてもらうという方法で交流しました。また、そのクラブ内のソーイングレディ(手芸クラブ)のメンバーには、足久保の子どもたちの筆記支援に生かしてもらいたいと考え、「筆記支援ツール」をフェルトで作成してもらいました。このように、研究成果を還元しつつ、大学生を交えてシニアと子どもたちとを結ぶパイプ役になるという地域連携も検討していく価値があります。

社会連携へ向けたアピールポイント



■ プロジェクトメンバー

- ・川嶋桃子
- ・白石那奈絵
- ・佐久間健
- ・杉本冬衣
- ・朝日清子
- ・松山明日香
- ・内藤悠貴
- ・田中千尋
- ・伊藤彩花
- ・増渚航暉
- ・石井琴奈
- ・大野百恵花
- ・内海理名
- ・丹野愛里
- ・藁科碧生
- ・青山菜桜
- ・山本亜佑美
- ・筑地春日
- ・宮下優月季
- ・津田すぐり

プロジェクトリーダー

杉崎 哲子

学術院教育学領域
国語教育系列
教授

■ 相談に応じられる関連分野

- ・国語
- ・書道
- ・書字
- ・短歌
- ・心の教育
- ・文字文化
- ・日本文化

